



# 丹後中央病院での 腎臓病療養指導士としての活動

公益財団法人 丹後中央病院  
管理栄養士 田中 奈美恵

# 公益財団法人 丹後中央病院

所在地: 京都府京丹後市

診療科目: **腎臓内科はありません!!**



内科・消化器内科・脳神経内科・循環器内科・呼吸器内科

外科・脳神経外科・整形外科・婦人科・小児科

糖尿病内分泌科・血液内科・麻酔科・耳鼻咽喉科

リハビリテーション科・形成外科・眼科

泌尿器科・放射線科・リウマチ科・皮膚科

病床数: 306床

(一般: 210床、回復期: 96床)

透析: 25床



## 当院のCKD患者さんの多くは・・・

- 「腎臓が悪いなんて知らなかった！！」
- 「ずっと病院通っていたのに・・・、この前の受診の時に初めて、このままいくと透析ですよって言われた。」



→ステージG5になって初めての栄養指導依頼

- 患者さんの透析に対する心の準備ができていないうちに、透析導入。



→患者さんに治療の選択肢が与えられていない

もっと早くから、CKD患者さんに関わりたい！！  
腎臓病に対する患者さんの不安を軽くしたい！！

腎臓病療養指導士を目指そう！！



# 当院の腎臓病療養指導士の資格取得方法

丹後中央病院には**2名**の腎臓病療養指導士が在籍

**看護師**:慢性腎臓病療養指導看護師

講習会参加(H29年)→認定試験(H30年)→合格(H30年)

**管理栄養士**:

講習会参加(H29年)→**実地研修**(H30年)→認定試験(H31年)  
→合格(H31年)

《**実地研修** :京都桂病院 3日間 指導医:宮田仁美先生》

- 1)腎臓内科医師によるCKD患者の外来見学
  - 2)看護師によるCKD患者の療法指導見学
  - 3)管理栄養士によるCKD患者の栄養指導見学
  - 4)薬剤師によるCKD患者の服薬指導見学
- 10例の見学と各2例のケースレポート  
他に透析室・腹膜透析・医師の講義など



# 当院での腎臓病療養指導士としての活動

## 1. 腎臓病療養指導室開室

平成30年度より、慢性腎臓病対策を目的とし開室。

メンバー：看護師・管理栄養士の2名




## 2. 腎臓病教室

平成30年度より、2カ月に1回CKD患者とその家族を対象に実施

## 3. 世界腎臓デー


3月の第2木曜日に入院患者に腎臓病啓発カードを配布

世界腎臓デー



腎臓病の早期発見と治療の重要性を啓発する国際的な記念日として、国際腎臓学会と腎臓財団国際協会によって2006年に共同で提案され、毎年3月の第2木曜日に実施することが定められました。

慢性腎臓病（CKD）とは、腎臓の動きが徐々に低下していくさまざまな腎臓病の総称で、放置すると、透析治療が必要になったり、心筋梗塞や脳卒中を引き起こす危険な病気です。今や国民の8人にひとりがCKDであり、国民の健康を脅かす国民病と考えられるようになってきました。



腎臓病療養指導室

## 4. 職員に対するCKDの啓発活動

- ・職員健診での腎機能項目(クレアチニン・eGFR)の追加
- ・腎臓病療養指導室ニュースレター発行
- ・院内報・院外報への腎臓病関連記事の掲載

腎臓病療養指導室 NEWS LETTER No. 09 令和元年8月6日発行

### 第3回腎臓病教室報告

出席者の様子

- 令和元年8月1日（木）に、みたびホールにて開催しました。
- 今回のテーマ：「サルコペニア・フレイルと腎臓病」
- 「腎臓病の運動療法」
- 18名の参加がありました。

サルコペニア・フレイルと腎臓病

腎臓病の運動療法

1日のテーマの中心テーマ 参加者全員が楽しみました。

#### 当日の開催内容

- 開室式～まずはみんなで手紙に自分らしく書いてくださってありがとうございます。とても感謝になりました。
- 体験しようと思えば、身体が硬くなってきて動かしにくい。そして歩行が難しくなると、運動量も減りやすくなります。
- 体験できるのが嬉しいです。
- サルコペニアについて理解できなかった方が、たくさんいました。
- カロリーは大抵理解できているがたんぱく質がどのくらい多いかわからない。
- 早く知ってほしいと思います。
- 関係者の協力とご協力ありがとうございます。

#### 当日の開催

1. 開室の内容  
(1) サルコペニア・フレイルと腎臓病 長い10名、新しい4名  
(2) 腎臓病の運動療法 長い10名、新しい4名
2. 運動指導は取りやすくなる10名、新しい3名  
運動内容はウォーキング（毎日15～20分、3,000歩）
3. 栄養指導に参加したいですか？  
はい10名、お母さんで参加したい1名
4. 今後の「腎臓病の検査項目の見方」について聞きたい事はありますか？  
血中のたんぱく質（クレアチニン）は検査でいいでしょうか？  
（18名参加、14名返答）

# 今後の当院での課題

## 1. 腎代替療法の情報提供→患者さんによる療法選択

現在当院では腎代替療法は血液透析のみで、患者さんに他の情報提供ができておらず、選択肢が与えられていない。

集団指導のみでは限界があるので、個人指導を増やし、個別対応をしていく必要がある。

他の医療機関の腎臓専門医への橋渡しは・・・？

## 2. 末期腎不全患者への介入

現在腎臓病教室への紹介患者さんのみフォローしているが、入院患者からの拾い上げも必要。

入院患者は末期腎不全に至っている事が多く、血液透析導入の待機者が多い。透析導入までの期間を延ばす事と、透析導入への不安の軽減の為の介入が必要である。



## 最後に

私達コメディカルは患者さんを『診る事』はできませんが、『見る事』は出来ます。

腎臓専門医の少ない丹後で不安な思いをされているCKD患者さんに少しでも寄り添い、支援できるよう、今後も皆さんと一緒に勉強を続けていきたいと思っています！！



ご視聴ありがとうございました。